

だれもが感染する可能性のある新型コロナウイルス。新たな感染者数などの報道を見るたび不安が大きく膨らみます。この不安が感染者やその家族に向かい、差別となるケースが相次いでいます。

東北のある地域では、感染者が自死し、家族も感染したことが周囲に知られて引越しを余儀なくされたと言います。国立成育医療研究センターが行ったアンケートでは、子どもの3人に1人が「自分や家族がコロナに感染したら秘密にしたい」と考えていることがわかりました。これは感染よりも周囲の目を恐れる心理が働いているからと思われれます。周囲からの視線が温かいか冷たいかで、私たちの住む社会は大きく変わります。「狭い町で噂になるから、一人目

の感染者だけは絶対になりたくないわ」「感染したって分かったら、この町ん中ですぐに村八分にされんぞ」「感染なんかしたら『あの人!』って、後ろ指さされちゃう」「周りから陰口たたかれてこの町に住めなくなる」

これは、新潟県見附市みつけ公式フェイスブックに掲載されたコロナ感染を題材にした5コマ漫画の一部です。漫画の最後には作者が「噂するのも、村八分にするのも、後ろ指さすのも、陰口たたくのもウイルスじゃない。この『ひと』なんだよなあ」とつぶやいています。作者は「小さな市に住む一人として、感染者が出てもお互いを思いやり、完治を願う気持ちを大切にしたいと思って描いた」と言っています。この作者の温かい思いが多くの人々の共感を呼んでいます。

私たちが恐れるのはウイルスであつて、人ではありません。感染を恐れるあまり人を思いやる心を失わないように行動する必要があります。「ここに生まれてよかった」「ここで暮らせてよかった」と実感できる、温かい地域社会にしたいものです。

